

## &lt; 運営推進会議における評価 &gt; ※公表用

## 【事業所概要】

法人名	医療法人社団 久英会	事業所名	看護小規模多機能型居宅介護ゆのそピア
所在地	(〒 830 - 0053 ) 久留米市藤光町 1651-267		

## 【事業所の特徴、特に力を入れている点】

75歳以上の後期高齢者の増加と現役世代の減少が加速する2025年、そして人口減少が進む2040年問題を見据えた診療・介護報酬改訂がある中、利用者の状況は、独居・老老介護世帯、医療ニーズの高いかたが増加しております。そのため、介護度が高いかたや胃瘻からの栄養投与、留置カテーテルの管理を実施しているかたの再入院が多く、看護や介護の在宅における医療やケアの必要性も高まっています。また、サービスの質向上のため、事業所の運営において、職員配置などの組織編成や業務改善、介護保険外サービスの見直しなど、様々な課題に直面しています。

今年度は、各職種が専門性を発揮し、利用者本意のケアを行うために、「チームケアの向上」という目標を掲げ多職種で協働し、医療・介護サービスを実践いたしました。専門職が医療や介護ニーズにそって、ケアやりハビリを実施し、質の高いサービス提供を実施したいと考えました。アセスメント能力の向上として、モニタリングの記入方法の変更、多職種での情報共有とケアの検討をおこないました。人材育成として特定行為ができる看護師や介護士を育成し、看取りケアを含む医療的ケアが必要な方を積極的に受け入れる体制をとりました。今後は、地域密着型サービスの拠点として、地域の方々との連携を強化し、ご相談への対応、地域あるいは利用者ニーズに応じた事業所運営やサービス提供を行い、地域への貢献ができればと考えております。

## 【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2023 年 12 月 6.13.20 日	従業者等自己評価 実施人数	( 21 ) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------------	------------------	----------	---------

## 【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2024 年 1 月 18 日	出席人数 (合計)	( 9 ) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 ( 2 人 ) <input type="checkbox"/> 市町村職員 ( 0 人 ) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 ( 0 人 ) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 ( 5 人 ) <input type="checkbox"/> 利用者 ( 0 人 ) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 ( 2 人 ) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 ( 0 人 ) <input type="checkbox"/> その他 ( 0 人 )			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<p>理念・フィロソフィーの浸透と実践 地域包括ケアへの貢献 看介護ミーティング方法の見直し 利用者や家族からの意見抽出とサービスの充実 (運営推進会議の活用) 専門的な技術の向上 BCP 策定と職員への周知 安心安全な介護・看護の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝ミーティング後にフィロソフィーの内容を個々で考えながら唱和</li> <li>・入院中の MSW との連携と退院、退所後のシームレスな受け入れ実施</li> <li>・週 1 回、利用者情報を共有し、課題に対してのサービス調整やケアについて検討</li> <li>・感染対策、契約内容についての意見交換を実施</li> <li>・特定行為看護師の研修参加し実習中 訪問看護研修終了</li> <li>・BCP 策定はできたが訓練は 2 月に実施予定</li> <li>・インシデント報告後の評価記録変更し情報共有</li> <li>・マニュアルの見直し</li> </ul>	<p>専門的な技術の向上においては個人差があり、モチベーションややりがいといった意識的なところが関連していると考え。次年度はエンゲージメントの向上を目指して研修参加等を積極的に実施していきたい。 (会議でのご意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も専門性を高め、医療ニーズの高いかたへの支援をお願いいたします。</li> <li>・</li> </ul>	
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p>	<p>情報共有方法の明確化 サービス提供管理手順の作成 介護・看護の一体化推進 (連携強化) 介護過程の展開 (カンファレンスの開催、介護計画の立案)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問マニュアルの変更方法の検討 メール等による情報共有</li> <li>・サービス提供表のマニュアル作成 (誰が、どのように確認するのか、1 日の訪問介護回数や日曜日通いの人数の検討)</li> <li>・ミーティングによる利用者のカンファレンス、情報共有</li> <li>・介護士をリーダーとしたカンファレンスの実施と内容の記録、ケアプランに基づいた個別ケアの作成とワークシート、訪問マニュアルへの</li> </ul>	<p>ケアプランに基づいたケアの個別プランと情報共有が不十分なため、PDCA サイクルを回し確実に実践していきたい。</p>

			反映、モニタリング内容の見直し	
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	地域との関わりを活かしたサービスの提供 HP・SNSによる情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「来たれ子供たち」の実施を年2回、祭りを年に1回予定、地域の文化祭に出品、介護予防体操の開催</li> <li>・HPへ事業所評価、登録数や空き情報、実績をUp、ゆのそピア通信を毎月発行</li> </ul>	<p>(会議でのご意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆのそ苑を含め近隣の方々との連携が今後必要となってくると思います(特に災害時などの対応)。</li> <li>・地域のサロンなどに参加して勉強会を行っていただきたい。</li> </ul>
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	<p>運営規程の見直し</p> <p>医療ニーズへの対応 (医療的ケアが実践できる介護士の育成)</p> <p>地域拠点としてのサービス機能の発揮</p> <p>安心して暮らせる町づくりへの参画(介護予防活動)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自費内容変更</li> <li>・喀痰吸引等研修終了者、1名実習中</li> <li>・介護予防体操の実施 集団リハビリの効果について報告</li> </ul>	<p>吸引ができる介護士については気管内カニューレ装着中の利用者については、気管内の喀痰吸引を実施できないため、看護師がいない夜間帯の宿泊サービスはお受けできない状況である。</p>
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)	<p>計画的なサービスの提供</p> <p>評価方法の検討</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・顧客満足度実施 満足度：86%</li> <li>・食事満足度実施 普通：64%</li> <li>・看取りに関しては、看取り後カンファレンスを実施し振り返りと課題について話し合いを行いケアの質向上につとめた。</li> </ul>	<p>看取りは依頼があれば受け入れているが法人内からの紹介が多い。特定行為ができる看護師の存在、看取りができる事業所であることをアピールしていきたい。</p> <p>(地域のかたからの質問)</p> <p>事業所評価については、市でのデータ集計など結果に対する市からのフィードバックはあるのかという質問あり。評価、改善計画立、会議内容の提出のみで市からの返答はないが、評価に対するご意見はあると答えた。</p>

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<p>「おおそできている」が10項目であった。 事業所外の研修参加が少なかった。モチベーションの問題があるが、エンゲージメントの向上を目指して研修参加、資格取得を促し人材育成を実践していきたい。 BCPは訓練を実施していないため課題を抽出できていない。研修や訓練を通して改訂をしていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域共生社会の実現に向けた取り組み</li> <li>地域活動への参加、介護報酬外サービスの実践、相談機能の強化</li> <li>情報連携の推進、看護師による特定行為の実践、法人間連携強化</li> <li>・人材育成</li> <li>研修機会の計画と確保、管理者育成</li> <li>・働きやすい職場づくり</li> <li>組織編成（看護師専任配置）、健康経営への参画、福利厚生の実施（休暇の取り方検討）</li> <li>・BCP（業務継続計画）研修参加</li> </ul>	
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p>	<p>「おおそできている」が17項目で、マニュアルに関しては今後も改訂していく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良質なサービスの効率的な提供</li> <li>ICT活用による業務効率化、モバイル機器の充実</li> <li>・看護、介護サービスの質確保</li> <li>介護記録質的監査</li> <li>リーダーシップの発揮</li> <li>業務内容見直し</li> <li>・自立支援と重度化防止</li> <li>LIFE データ活用とサービスの質向上</li> <li>リハビリ評価による在宅生活の推進</li> </ul>
	<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)</p>	<p>「おおそできている」が3項目、多職種との連携体制が「あまりできていない」という結果であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な運営推進会議開催と情報提供</li> <li>・緊急時宿泊サービスが対応できるサービス調整</li> </ul>
	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへ</p>	<p>「おおそできている」が8項目、人工呼吸器を使用している利用者はNPPV使用者のかたの受け入れのみである</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実績等のSNSによる発信</li> <li>・地域住民に対する介護予防活動の実施</li> <li>・喀痰吸引等実施における研修参加</li> </ul>

	の参画(評価項目 32~41)		
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42~44)		「おおよそできている」という結果である。看取りは依頼があれば受け入れているが法人内からの紹介が多い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PDCA サイクルの実践</li> <li>・看取りケアの充実</li> </ul>

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
	よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
<b>I 事業運営の評価 [適切な事業運営]</b>						
<b>(1) 理念等の明確化</b>						
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践						
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		✓			<p>ご利用者のニーズを多様化していると思いますが、複合型の利点を活かして地域福祉へ貢献していただくようお願いします。</p> <p>✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」</p> <p>✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」</p> <p>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</p>
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		✓			<p>看多機の利点が活かせる多職種での連携をお願いします。</p> <p>✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します</p> <p>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</p>
<b>(2) 人材の育成</b>						
① 専門技術の向上のための取組						

	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		✓				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します</li> <li>✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」</li> <li>✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・定期的に目標・評価面接を実施している。 ・クリニカルラダー（段階別キャリア向上システム）の認定を推進している。					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		✓			外部研修の成果を事業所内で横展開して頂けるようにお願いします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・県や市主催の研修を活用し参加している。 ・段階に応じた研修の機会を確保し、キャリア支援を実践している。					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		✓			ICT の利用を含め十分な情報共有をお願いします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 月 1 回の看護介護間のミーティングを実施、週 1 回の介護間のミーティングを実施し、利用者等の情報の共有を実践して					

評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
	よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	いる。					
<b>(3) 組織体制の構築</b>						
① 運営推進会議で得られた意見等の反映						
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		✓		会議での地域福祉の問題点の収集をお願いします。	✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・助言や意見に対して実行できる内容については迅速に行えている。 ・会議での意見や要望をあまり抽出できていない。				
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備						
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		✓		職場環境のよい状態を持続してください。	✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・職場環境、職員との関係もよく、精神的な不安がなく働けている。 ・定期健診など健康経営に参画している。 ・残業がないようにシフトを変更し業務改善を行っている。 ・急な用事に対する時間有給の取得や年				

評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
	よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	間を通して毎月有給が取得できる状況である。					
<b>(4) 情報提供・共有のための基盤整備</b>						
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備						
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている		✓		情報共有のめれがないよう、日々のルーチンで徹底してください。	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・日々の申し送りやノートで情報を共有している。 ・紙面に対してメールでの情報共有ができていく。 ・訪問マニュアルが更新できていないことがあったため、ミーティングにて周知した。				
<b>(5) 安全管理の徹底</b>						
① 各種の事故に対する安全管理						
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている		✓		多角的な視点でインシデント・アクシデントを多職種で評価してください。 ・インシデント報告は内容だけでなく、その後の経過を報告してほしい。	✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・インシデント報告については評価時のレポートを変更し、経過が見やすいツールへと変更した。 ・運転前アルコールチェックの徹底、委				

	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		員会にて車両点検、各職種でインシデントに対する考察と対策、その後の評価を実施している。					
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		✓			<ul style="list-style-type: none"> <li>・実行可能なBCPを作成し適時見直しをお願いします。</li> <li>・専門用語があるのでわかりづらい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます。</li> </ul>
<b>II サービス提供等の評価</b>							
<b>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>							
<b>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</b>							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		✓			<ul style="list-style-type: none"> <li>内部にケアマネジャーがいる利点を活かして随時の情報共有でアセスメントをお願いします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します</li> <li>✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント</li> </ul>

	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
							が必要となります
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		✓			両職種が対等で情報共有しトップアダウ的なカンファレンスにならないようお願いいたします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます</li> </ul>
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		✓			家族の情報はすぐには取得できないと思いますが、家族との密な関係を作ってください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます</li> </ul>
14	○ 利用者の有する能力を最大		✓			少しでも長く現在の生活を	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者の有する能力を活かし</li> </ul>

	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている					維持できるようにお願いします。	た、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		✓			医療との十分な情報共有で看護の計画を作成してください。	✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
<b>(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践</b>							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		✓				✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します

評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足	
	よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない			
③ 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している		✓			訪問による情報収集を今後ともお願いします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します</li> <li>✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です</li> </ul>
④ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		✓			主治医以外の医師からも必要な情報をとり共有をお願いします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します</li> </ul>
<b>(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供</b>							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かし		✓			役割分担が硬直的にならないようにお願いします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度</li> </ul>

	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	ながら、柔軟な役割分担が行われている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・日々の業務に応じて役割分担ができており、専門的なところに関しては看護師と協働ケアを実践している。 ・特定行為看護師が在籍している。					を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている		✓			必要時にすばやくミーティングができるように願います。	✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・ミーティングでケア内容を検討し情報共有ができています。 ・介護士リーダーであるが主体となっていることが少ない。					

	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>② 看護職から介護職への情報提供および提案</b>							
21	○ 看護職から介護職に対して、 疾病予防・病状の予後予測・ 心身の機能の維持回復など の観点から、情報提供や提案 等を行っている		✓				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します</li> <li>✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます</li> </ul>
<b>(4)利用者等との情報及び意識の共有</b>							
<b>① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供</b>							
22	○ サービスの趣旨および特徴 等について、分かりやすく説明 し、利用者等の理解を得て いる		✓			<p>利用者が不安にならない様に十分な説明を今後もお願いいたします。</p> <p><b>[具体的な状況・取組内容]</b> 質問された際や開始時に利用者の理解度を判断しながらサービスについての説明を行っている。 キーパーソンに対する説明もリーフレット等を用いて説明している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します</li> </ul>

	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		✓				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・介護に関しては、療養生活の継続に向けて、注意すべきことやケアの内容を利用者やご家族に説明や理解を得ている。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		✓			家族で安心して医療機器を使用できるよう、情報提供をお願いします。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 看護職は利用者等に対して医療機器の説明を実施している。また、介護職に対しても取り扱いについての説明を実施している。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		✓			利用者が望むサービスの提供をお願いします。	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 利用者や家族の意向を尊重しているが、サービス件数に制約があり、すべてのサービスを反映することができない。新規受け入れの段階でアセスメントシプランを予測し、全体的なサービスの整合性につとめている					

	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている		✓			PDCA の繰り返しによる見直しの中で、本人・家族の意向を充分にくみとってください。	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> モニタリング、報告書で状態を把握、カンファレンス等で、ケア内容について検討後、利用者や家族へ説明や相談を実施している。					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		✓			終末期に於ける家族のグリーフケアも含め説明をお願いします。	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 看護職が ACP に沿った観察、アセスメントを行い、主治医との連携を取りながら家族への説明あるいは意向を聴取し記録している。					

評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
	よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>2. 多機関・多職種との連携</b>						
<b>(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供</b>						
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行						
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		✓		在宅での移行で家族に不安・とまどいがない様に支援をお願いします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます</li> </ul>
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有						
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		✓		必要な情報をすばやく、取り出し、医療に提供できるように職員の対応をお願いします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します</li> <li>✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です</li> </ul>

評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
	よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築						
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	✓			ICT の利用で緊急時の体制を整えてください。	✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・紙カルテに緊急時の連絡先を記入し保管している。 ・夜間急変時は介護職がオンコールの看護師へ連絡し、看護師が訪問し医療ケアの実践、主治医への報告と指示を受けている。				
<b>(2) 多職種との連携体制の構築</b>						
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討						
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている			✓	地域資源に対し積極的に関わって頂くようお願いします。	✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・サービス内容等の実績、インシデント報告、症例報告等の情報を定期的に発信している。 ・情報提供はできているが意見や提案は少ない。				

評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
	よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画</b>						
<b>(1) 地域への積極的な情報発信及び提案</b>						
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信						
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている		✓		ホームページは確認できませんでした。容易なアクセスをお願いします。	✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 事業所内ボードに張り出し、ホームページに実績報告をアップしている。				
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている		✓		今後とも地域への情報提供をお願いします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です</li> <li>✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。</li> <li>✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます</li> </ul>
		[具体的な状況・取組内容] ・事業所として定期的に行っている。 ・ゆのそピア通信を発信している。				
<b>(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮</b>						
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供						
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している		✓		久英会グループでの取り組みをお願いします。	✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください
		[具体的な状況・取組内容] 指定訪問看護事業所を併設しているため、70名近くの登録者に訪問看護を実施している。				

評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
	よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
						<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ						
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		✓		今後も体制の維持をお願いします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 現時点で 4 名の介護職員は吸引ができる資格を保持し、勤務の調整をして 24 時間受け入れを行っている。				
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている			✓	積極的体制構築をお願いします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・NPPV は受け入れが可能であるが、気管切開をして実施する方法の人工呼吸器は受け入れをしていない。				

	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		✓			今後も ACP を含め利用者・家族への説明をお願いします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
<b>(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画</b>							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している		✓			今春の改正を含め新しい情報を共有できるようにお願いします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます</li> <li>✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」</li> </ul>

	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している		✓				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます</li> <li>✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」</li> </ul>
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている		✓			<p>地域の行事等で積極的に地域に関わって頂けるようにお願いします。</p> <p><u>【具体的な状況・取組内容】</u></p> <p>・運営推進会議では、満足度調査の結果と対策を報告、感染対策についてご意見を伺った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます</li> </ul>

	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
							<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</li> </ul>
41	<p>○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている</p>			✓			<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます</li> <li>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
<b>Ⅲ 結果評価</b>				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ② 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 自宅（居室）の環境設定をおこなうことで動作が安定したりと各職種の専門的な視点を取り入れながら生活が継続できるように支援している。	今後も地域の高齢者福祉への貢献をお願いします。	✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ② 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 看護師は専門的な視点でケアを実施し医師との連携は図れている。必要時に利用者や家族の思いを医師へ伝えたり緊急時		✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		対応を行ったりと不安の軽減し安心感が得られるように支援している。		
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>② 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>5. 看取りの希望者はいない</p> <p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <p>看取りの件数はすくないが依頼があれば実施できている。利用者や家族の意向を尊重し各職種でケアを実施している。</p>		<p>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>